

6次産業化プランナー〔新潟県〕



名前：多田 朋孔（ただ ともよし）

所属・役職：十日町市地域おこし協力隊
（十日町市役所 嘱託職員）

連絡先：新潟6次産業化サポートセンター -
（社団法人 新潟県農林公社）TEL 025-285-8447

専門分野および対応可能なコーディネート業務

経営ビジョン、中期的な経営計画、事業計画策定のアドバイス
店舗の経営管理、売上拡大のサポート
会議やワークショップ等のファシリテーション
ファシリテーションとは

会議、ミーティング等の場で、発言や参加を促したり、話の流れを整理したり、参加者の認識の一致を確認したりする行為で介入し、合意形成や相互理解をサポートすることにより、組織や参加者の活性化、協働を促進させる手法・技術・行為の総称

これまでの活動実績

実施時期	業務名・概要	自ら担った役割
2010年	田んぼへ行こう！	都市との交流イベント（エコツーリズム）の受け入れ業務
2011年	スノーバスターズ	都市との交流イベント（エコツーリズム）の受け入れ業務
2011年	中山間地直接支払い	集落活性化プランの書類作成

6次産業化に関する想い(メッセージ)

日本は戦後の高度経済成長によって、人々の生活はより便利になったと言えます。しかしながら、同時に多くの矛盾をはらむような社会にもなっております。このままの延長線上で進むと、地球上で人類が永続的に存続し続ける事は困難です。また経済効率重視のグローバル資本主義が世界中に広がるなかで、自然環境の破壊は深刻な状況になり、また貧富の差の拡大などによって人々が安心して暮らせる環境も破壊されております。

これまでの延長線上の経済効率重視の考え方ではなく、自然と共存しながら、持続可能な社会を構築していく事がこれからは求められると考えています。

6次産業化を推進する事で、これまで経済効率から軽んじられてきた田舎の地域資源を見直し様々な事業が立ち上がる事で若い後継者が農山漁村に移り住んだり、日本の国内で食料やエネルギーを完全に自給できるような社会を目指す必要があると考えております。

私は以前、企業のコンサルティングを行う会社に勤めておりましたが、上記のような思いから、会社を辞めて妻と子供と一緒に新潟県十日町市の池谷集落という現在8世帯18名の集落に移り住んで、地域おこしの活動を行っております。自らも農村に住みながら活動をしつつ、自分の住んでいる地域以外の活性化にも貢献が出来ればよいと考えております。



6次産業化プランナー
多田 朋孔